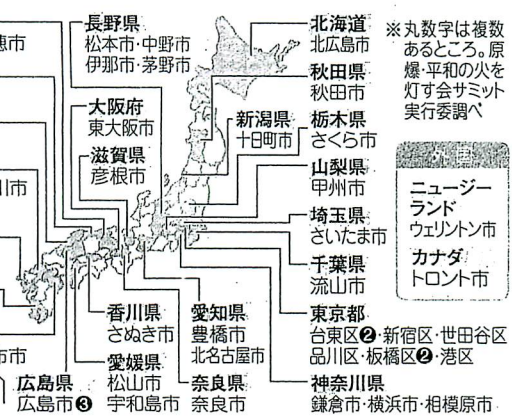
2011.7.15 東京新聞（夕刊）

「灯す会サミット」12年ぶり開催

原爆の火 絶やさない



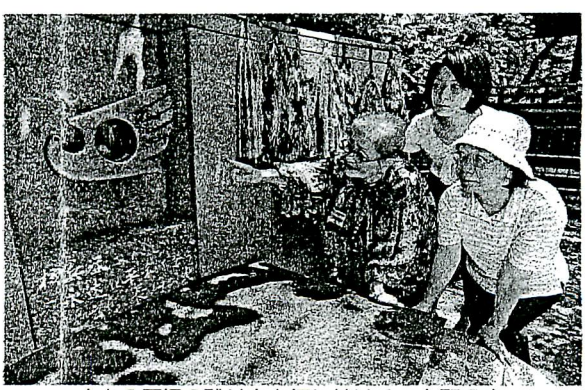
核廃絶などを願い、広島に投下された原爆の残り火などを灯し続ける全国の団体が十七日午後一時半から、東京都台東区花川戸の区民会館に集まり、「原爆・平和の火を灯す会サミット・交流会」を開催する。サミット開催は十二年ぶり。同区の上野東照宮で活動を続ける「上野の森『広島・長崎の火』を永遠に灯す会」は「火を灯し続けることの大切さを再確認したい」と話している。（伊東浩一）

台東で17日 後継者育成など課題

広島市に原爆が投下された当時、郊外にいて助かった故山本達雄さんが、地下倉庫に残っていた火を、カイロの火だねにして福岡県星野村（現八女市）の自宅に持ち帰った。山本さんは同村役場に渡し、火は現在も八女市内の平和の広場で灯り続けている。

「灯す会」は一九九〇年に、この火を分けてもらった。同会が昨年末、同様に全国に分けられた火や、長崎の原爆で吹き飛ばされた屋根瓦を下敷きに摩擦熱でおこした火などを灯す団体を調べたところ、国内に四十五、カナダとニュージーランドに計二団体あることが確認された。

サミットは九九年に、愛知県豊橋市で一度、開催されたが、その後、各地の団体が集まる機会は持たれなかった。この十二年間で、多くの団体は会員の高齢化が進み、後継者不足が深刻化したという。ろうそく交換やランプ掃除など、火を維持する作業の負担は大きく、活動をやめた団体もある。



広島の原爆の残り火を灯し続ける、上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会のメンバー＝14日、東京都台東区の上野東照宮で

「灯す会」常任理事の川杉元延さんは「福島第一原発事故が起こり、今や日本は広島・長崎に続いて二度目の核の被害にあってしまった」と話す。今回のサミットには、そのうちの十二団体が参加し、火を灯し続けている思いを述べ合い、後継者を育成する工夫などを互いに発表する。

サミットには市民も参加できる。参加費は千円。問い合わせは事務局＝電03（3818）6151＝へ。